

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：SRS株式会社

定 価：一部30円

2015年 1月20日

第380号

映画「じんじん」

理事長 稲松 義人

昨夜、浜松市社会福祉協議会の知人からお誘いを受け、「じんじん」という映画の試写会に出かけた。この映画は、俳優の大地康雄さんの構想から始まったそう、北海道の剣淵町という小さな町が取り組んできた「絵本の里づくり」をモチーフにして、親子の絆のあり方を問いかけている。絵本の読み聞かせを題材としているが、全体から、親から子へ、大人から子どもたちへ、人として生きていくために知ってほしい大切なことを、どのようにしたら伝えることができるだろうか、ということ深く考えさせられた。ぜひ、多くの方に観てほしい。

映画が終わったあと、浜松上映実行委員会副代表の長田さんから、上映会の案内とチケット頒布の協力の依頼があったが、そのときに長田さんは、コミュニティづくりは市民が主体的に関わる場所から始まるという内容のメッセージを添えられた。長田さんはご自身も、魅惑的倶楽部(エキゾチッククラブ)というNPO法人のメンバーであり、お仕事としても市民協働センターで市民活動の普及に尽力しておられる。私もおねてより、社会福祉は、市民協働で進めるべきであると感じてきたこともあり、

以前、つのおぶえ(344号)で対談の記事を掲載させていただいたことがある。普段は別のところで働いていても、同じ方向性で活動していると、どこかでしつかりつながっているのを感じた。

シリアの一部地域を拠点にしたテロ組織に日本のジャーナリスト後藤健二さんが拘束され殺害されたという報道は「暴力」による国際社会への挑発というところで全世界から大きな非難を集めている。決して赦すことはできない。当然のことである。暴力に屈することがあってはならない。そのような強い意志をもつことも大切なことだろう。

しかし、「暴力」は悪いから強い力で、言い換えれば力づくで抑え込むことが正義で、その正当性を勝ち誇るとすれば、それで本当の解決になるのだろうか。「力づくの対応」に心ならず屈した人たちは、心の中に不満が残り、その不満は怨念となつてずっと心の中でくすぶり、いずれまた別のところで暴発するところにならないだろうか。いや、実際のところ、人間の歴史を振り返ると、そのようにして戦争が繰り返されて来たのではないだろうか。

私たち一人ひとりには決して強い力ももたない、弱い存在である。だからこそ、自分たちの社会の問題に対して、弱い人たちが集まって力を合わせる。集まった力は、大きな力になって社会を動かす。しかし、集まった力を束ねる人が、それ

は自分自身の力なのだ勘違いしたら、もともとの力の源泉である弱い人たちが、小さい一人の尊厳を踏みにしてしまわないだろうか。かつて、権限をもった人が、権力によって人々を従わせ、人々を支配した時代と、大して変わらないのではないだろうか。

後藤健二さんは、テレビ画面で「シリアの人たちを責めないでほしい」と語りかける。「戦渦に生きる中で、子どもたちこそ希望だ」と語るジャーナリストとしての彼の思いを私たちはどのように引き継ぐことができるだろうか。私たちは、遠い国で活動する人々を多少バックアップすることはできるかも知れない。でも子どもたちに直接声をかけることはできない。

しかし、自分たちの住む町の中にも、真つ暗闇の中を必死に生きている子どもたちがいることを忘れないでほしい。下を向いてうずくまる子どもたちの本当の心はなかなか見えないかも知れない。そんな子どもたちが顔を上げ、満天の星空を仰いで生きていくことができるように、私たちはどんな声をかけることができるだろうか。

映画「じんじん」浜松での上映会は
3月27日(金) 28日(土)の両日、早馬町の「クリエート浜松」で開催。
お問い合わせは、浜松上映実行委員会
事務局・電話053・457・2241まで

いきいきと働く

小羊学園では初めてとなる就労支援事業が昨年4月からオリブの樹でスタートしました。新たな取り組みにおける苦労や実践から見えてきた利用者の表れや職員の意識変化など、日々の様子をご紹介させていただきます。

●実践報告 オリブの樹就労支援主任 小泉 真己

平成26年4月、様々なニードの高まる中で小羊学園として初めてとなる就労継続支援B型事業がスタートすることとなりました。メンバー4名、職員2名でスタートをして、現在はメンバー7名職員3名にて日々の仕事に取り組んでいます。今までは比較的重度の障がい者を中心に受入してきた小羊学園でしたが、この就労事業を始めたことで、今までは違うメンバーの方を受け入れることが出来るようになりました。生活介護を利用している利用者のステップアップも法人内で可能になることや、一般就労へ向けての訓練の場としても多くのニードに対応していける事業となっております。その仕事の内容やメンバーの様子等についてご紹介をさせていただきます。

仕事としては現在大きく2つの仕事をしていきます。

一つは、建て替えしたばかりで同法人の支援センターわかぎの清掃委託業務です。建物の内外の清掃業務をメンバー5名でおこなっています。建物内では事務所、玄関、廊下、食堂、生活棟、トイレ

の清掃をしています。建物外では夏は草取り、冬は枯れ葉拾いのお掃除をしています。最初は職員、メンバー共々とまどいながらのスタートでした。清掃業務も初めてであったり、なにより職員と顔を合わせるのが初めてのメンバーであったり、一緒に仕事をするという環境において、互いとまどう部分もありました。すべてが一からのスタートでしたがメンバーの方が慣れることにあまり時間はかかりませんでした。道具の使い方や清掃手順等をマスターする等の能力に驚かされることも多々ありました。

二つ目は、昨年12月から始めた一般の自動車部品の加工をしている工場にてバリ取りをする仕事です。とあるご縁があり紹介していただき見学をさせていただいた時には少し難しいとも思いましたが、何ごとにもチャレンジしていくことは大事なことであると思ひ、始めさせていだだこうと思ひました。メンバーに打診をして、2名の利用者が手を上げてくれてくれたことで決断することが出来ました。

1日の流れと利用者の様子

メンバーは全員送迎車にて支援センターわかぎへ通勤します。そしてメンバー全員と職員、そして支援センターわかぎのフロアリーダーが参加しての朝の会を行います。朝の会では体調の確認、お知らせや1日の予定の確認、そして皆が楽しみにしている給食の献立の読み上げを行っています。元気に挨拶をするのももちろん大事にしています。そしてそこから2つの仕事、支援センターわかぎの清掃業務と工場のバリ取り作業へと分れていきます。

清掃業務

先に支援センターわかぎの清掃業務の内容と利用者の様子をご紹介させていただきます。場所は玄関、廊下、事務所、食堂、トイレそして生活棟の清掃を行います。利用者は自分の必要な清掃用具を準備してホールへと集合をします。始めの頃は準備する道具も解らず職員が指導をしながらの作業でしたが、今ではその必要も全く必要なくなりました。

そこで当番が元気に始めの挨拶をし自分の持ち場へと清掃に向かっていくこととなります。

清掃場所ではモップ、ほうきや塵取り、そして雑巾と各場所や清掃内容に応じて上手に使い分けて行うことが出来るようになりました。特に大きなモップ

プを使つての清掃作業はどの利用者にとつても始めてのことであり、とまどいが見られることもありましたが、思っていたよりもずつと早く使い方を習得することが出来ました。事務所を担当するメンバーはコロナを使いながらの清掃となります。使い方は解ってはいるものの上手く使うことが出来ず苦勞をしていましたが、もつと大変だったのがコロナをめぐって新しいシートを出す作業でした。指導をしていく中でみるみるうちに上達していき、今では上手に作業をすることが出来ています。当然のことながらメンバー全員的能力が同じであるわけはなく、メンバーの中にはモップのダスター交換になかなか慣れることが出来ず職員の手を借りなければ出来ないメンバーもいましたが、今では全員が自分で出来るようになりました。



トイレ清掃はメンバー全員がほぼ初めてということで職員と一緒に作業することから始めていきました。拭く場所の順番から拭き方にいたるまで一からのスタートでした。こちらは慣れるまでに少し月日がかかりましたが、慣れてしまえば順序良くテキパキと行うことが出来るようになりました。

夏は屋外にて外溝の草取り作業を行います。毎日取っても取ってもとりきれないほどの草を暑い中頑張っています。弱音を吐かずに頑張る姿には感心させられます。そして冬になると落ち葉拾いの作業を行います。寒さにも負けず、時には汗を流しながら一生懸命作業をしています。

バリ取り作業

次に工場でのバリ取り作業と利用者様をご紹介します。場所は支援センターわかぎから車で3分位の場所に立地しています。工場での作業は自動車の一部に使用されているギヤのバリ取り作業です。リユーターという工具を使って削っていきます。初めて目にして、初めて使用する工具で、かなり細かな作業でもあり、少しの傷も許されないシビアな作業となっています。昨年12月中旬より練習からスタートをして今に至っています。2名の利用者と職員1名でほぼ毎日通っています。不良品にて3日間徹底的に練習をしてから本製品作業をして

いきました。練習期間は半分以上の物が不完全であったり傷に仕上がったりと不安ばかりでした。「やめておけば良かった」と考える日々でした。本製品作業に移行してからも不良品を出してしまふことがありましたが、メンバーの進歩はめざましいものがあり、現在では不良品はほぼゼロになりました。一番驚かされたのは作業に対する集中力です。作業中はおしゃべりすることもなく、離席することもなくもくもくと作業を続けていけるのです。日々作業効率も上がりこなせる数も増え、やりがいを持って出ています。



メンバーの楽しみ

忘れてはいけないこととして、メンバーに楽しみも提供していくこと。最大の楽

しみとしては給料(工賃)日です。1ヶ月頑張つて働いた集大成がその日になるはず。給料日が近くなるとメンバーの表情にも変化を感じます。それはお金を貰うことのほかに、毎月給料日の昼食は全員で外食へ出掛ける日だからです。順番で行く店を決めて、自分で働いて得たお金を持って食べたい物を食べ、自分で養う中で大事なことを考えています。

そしてもう一つの楽しみとして前年7月よりスタートをした喫茶店「Bee Cafe」を支援センターわかぎのカフェテリアにて営業しています。わかぎの利用者に楽しみや息抜きを提供出来ることや、就労支援継続B型のメンバーに楽しみを提供しながら個々のスキルアップに繋げることが出来ています。「Bee Cafe」は不定期での営業とはなりますが、2〜3回/月の営業をしています。来年度には年間予定の中に日帰りの行楽も入れていく予定をしています。

今後の課題

まだ始まったばかりの就労支援継続B型事業なので今後の課題は山積だと思えます。今後の課題としては利用者の方「工賃向上」というのが最大の課題であり、永遠の課題だと思えます。現状どうすればどのくらい向上できるのか?ではあります。利用者によりがいを付けて

取り組んでもらえるお仕事とはどんなものなのか?個々に違いはありますが、研究して提供していかねければなりませんし、メンバーに新たな楽しみを提供していくことも必要だと思えます。そして様々な仕事(活動)や楽しみの中で、メンバーがスキルアップして社会性を身に付けてもらい、ステップアップしていけることも目標にしていかねければなりません。メンバーにとつて居心地の良い場を提供出来る場にしていきたいです。

まだ始まったばかりではありませんが、今後ますます可愛がっていただける就労継続支援B型でありたいと思っております。

皆様のご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。



自分自身を見つめなおす 【法人中堅職員研修を開催】

2月6日(金) 研修研究委員・生活支援部門企画の中堅職員研修が、浜北森林公園森の家で行われました。

入職3・4年目の職員を対象に、「自分自身を見つめ直す」ことをテーマとし、セルフチェックや課題の共有、今後の改善点などをグループワークで行いました。また、研修会終盤には自分の支援や業務における計画を立ててもらいました。自己計画では職場内での役割や立ち位置を認識した上で、長所と短所を理解し、何を伸ばしていくべきか、また改善すべきかを発表しました。研修の終わりには、グループワークで一

緒に議論した仲間として今後も交流を深めたいという声も聴かれました。研修を通して外の空気を取り込み、中核を担う皆さんが、今後益々活躍されることを期待しています。



小羊学園を支えるボランティア

でんでん虫様

でんでん虫様は、旧電電公社(現NTT)の職員や家族の有志が集まるグループ。昭和54年から毎月1回三方原スクエアにボランティアにお越しいただいています。

当初は20名ほどのご婦人方が来られていました。平成に入り男性メンバーも加わり、女性8名が裁縫、男性6名が環境整備のお手伝いをされています。小羊学園とつながって35年、これからも末永くお付き合いください。感謝！感謝！です。



消防法改正の概要

平成27年4月1日より消防法の一部が改正されます。小羊学園が運営するグループホームにも関連いたしますので、その概要を報告します。

■改正の背景

平成24年の広島県でのホテル火災、平成25年の長崎市での認知症型グループホーム火災が発生したことにより消防庁が基準の見直しを図り、改正に至った。

■改正内容

(1)スプリンクラー設備の設置基準の強化：従前は消防法施行令別表1・6項(ロ)に該当の275㎡以上の建物に義務化されていた基準を、面積に関係なく設置することが義務化。

(2)自動火災報知設備の設置基準の強化：面積に関係なく自動火災報知設備の設置義務に6項(イ)の内、利用者を入居させ又は宿泊させる建物が追加(概ね平均区分4以下の事業所)

(3)消防機関へ通報する火災報知設備に関する基準の見直し：6項(ロ)が設置する設備は自動火災設備の感知と消防機関へ通報が連動して起動することが義務付けられました。

法人内でのグループホームでは既に(2)は設置済みですが、(1)のスプリンクラー設備については未設置のホームもあり、今後の対応を検討しています。(3)についてはシステム変更で対応いたします。

小羊学園を支える会

2014年度 寄付金報告

12月受付分 1,754,000円 (147件)
累 計 5,585,858円 (318件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。

下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局(鈴木)
小羊学園本部 ☎ 053-584-3337

編集後記

沖縄の基地移設問題で、国が推進する辺野古沖建設準備が動き、市民や反対団体と緊迫感が高まっている。先日TV報道で、沖縄防衛局が海中に「トンブロック」を沈め地底のサンゴを破壊した映像を見た。ダイビングが趣味で海好きの小生としては、生命のゆりかごであるサンゴが破壊され、共生する魚も含め生態系を壊しかねない由々しき事に心が痛む。イスラム国の報道も大きく取り上げられる中、人間だけではなくこの星に住む共同体として生命の尊さについて見つめ直したい。

寒さが続きます。皆様どうぞお体ご自愛ください。

(F)